

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0175300250		
法人名	有限会社ケアサポートますむら		
事業所名	グループホームファミールみどり		
所在地	〒093-0098 北海道網走市緑町1番10-6号 (電話) 0152-44-6282		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算	4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造建築 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,000~18,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.6 歳	最低 73 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道立向陽ヶ丘病院、網走脳神経外科リハビリテーション病院、後藤田医院、他
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、JR網走駅近くの住宅街に位置し、近隣住民と交流を図りやすい恵まれた環境にある。生活空間は、居間と食堂を中心に全体的に明るく機能的で、安全で見通しよく各居室を配置している。職員は、利用者の状態を細かく捉えながら、ゆったりと家庭的な雰囲気の中で、笑顔をたやみず利用者に接しているとともに、研修、ミーティング、会議に積極的に参加し研鑽を積んでいる。また、利用者一人ひとりに合わせた丁寧な介護計画をつくり、日々の介護を計画に基づき実践している。事業所開設後8年の実績により、地域からの協力を多数得られているほか、事務長が事業所内に居住しており、利用者や家族の安心に繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 重度化、終末期の方針について、利用者、家族との話し合いを明文化するとともに、看取り介護同意書を取り交わし、全員で方針を共有するなど、改善に取り組んでいる。また、入浴中は脱衣所にあるトイレを使用しない等の改善をし、落ち着いて入浴できるよう支援している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 複数の職員と管理者、記録者が中心となって、自己評価の必要性を改めて考えながら、職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に運営推進会議を実施し、事業所の運営内容や外部評価についての報告をしている。幅広く、事業所に関りのある参加者を集め、意見交換を行っており、地域、市、ボランティアの協力を多数得ることができるようになるなど、事業所と地域の密な連携体制を構築している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月の面会時等に、家族に介護記録等を公表するとともに、意見、苦情等を聞き取っている。意見、苦情等を得た場合は、会議で話し合い早急に対処するなど、運営に反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会には、事業所のための独自の「ボランティア部」ができており、日常的に、調理、読み聞かせ、話し相手になる等の、利用者への支援を得ている。また、災害時の地域連絡網を整備するなど、地域との協力体制ができており、連携が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に「ゆったりと、一緒に、楽しく、その人らしく、豊かに」との理念をつくりあげ、長年にわたり一貫して、その実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所玄関の壁や、台所に理念を掲示している。毎月のミーティングでは、職員全員で理念を唱和し確認しながら、理念の意味を理解し、日々の支援の中で実践するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の会合にはかかさず出席している。地域と事業所の長年の関りを通して、町内会に事業所のためのボランティア部がつくられるなど、日常的に交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	複数の職員と、記録者、管理者が自己評価を作成し、全体ミーティングにおいて、自己・外部評価結果を報告している。職員全員で評価の意義や目的を話しあい理解するとともに、改善点等を討議するなどの取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に実施しており、町内会役員、市職員、ボランティア、近隣住民など、多様な参加者から多くの意見等を得ている。また、会議を事業所内で開催し、職員の意見も聴く等の工夫をしながら、サービスの向上に活かすよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、地域包括支援センター運営委員、地域密着型サービス運営委員を受託しており、市からの協力要請を受けるなど、市担当者との関りを多く持つよう努め、相互にサービス向上につなげる取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の支払いに来訪する家族に、金銭出納帳、生活記録を提示するとともに、報告、説明をしているほか、連絡帳を作り、家族と情報交換をしているほか、事業所のホームページを公開して、インターネットでも家族と連絡をとっている。職員の異動についてもその都度報告をしており、現在まで大きな混乱は生じていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も多数参加しており、意見をj得ている。また、不満、苦情の窓口管理者が当たっているほか、市役所内にも窓口を設けている。職員は、家族が意見等を言いやすい体制づくりに努めるとともに、意見や要望には適切に対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動時には、利用者、家族に報告をし、理解を得られるように努力しているとともに、管理者や職員間で話し合いをし、利用者へのダメージを防ぐような対応をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、事業所内・外の研修、講習に参加する機会を多く与えられている。研修等を受けたあとは、ミーティング時等に他の職員に報告をし、内容を共有しながら、更なる研鑽に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との勉強会等に参加して、交流を図っている。さらに、他事業所との間で、認知症研究会を発足し、交流を重ねながら、共にサービスの向上につなげる取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者の自宅に、職員や他の利用者が散歩がてらに立ち寄り、会話を交わし親しんでもらったり、事前に事業所を訪問し茶飲み話をしながら雰囲気に馴染んでもらうなどの工夫をしている。また、事業所は常に開放しており、見学も自由に行える。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごす時間をできる限り持つよう努めており、利用者への感謝の気持ちと学ぶ心を常に持ちながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々に面接をしながら、一人ひとりの思いを聞き取っている。また、思いを表せない利用者には、家族と話し合いをするなどしながら、本人の思いを採り入れた介護計画となるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、医師、ケアマネジャー、職員、管理者等で話し合いを行うとともに、本人の生活歴を聞き取り、場合によっては自宅の様子を確認するなどしながら、利用者本位の介護計画を立てている。また、利用者一人ひとりに担当の職員を決めていることに加え、チームを作り、計画を検討するなどの工夫をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、計画の見直しを行うとともに、利用者の状況に応じて、現状に即した見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な受診時等で、家族が同行できない場合には、付き添いや送迎等の対応をしている。また、家族の宿泊の申し出も受け入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聴きながら、受診等の対応を行っている。また、時間外受診や往診、予防接種等を受けられる協力医療機関があるなど、利用者への支援体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族と話し合いを進め、方針を文書化し、看取り介護同意書を取り交わしている。職員は、重度化・終末期についての研修を毎年受けており、研修後はミーティング時に職員全体に報告し、共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間では、常に利用者への声かけや対応について、話し合いをしている。また、記録等の取り扱いには特に注意を払うなど、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日の流れはあるが、利用者本人のペースを大切にしながら、利用者一人ひとりの希望に沿うよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や好みを聞き取り、食事のメニューに採り入れている。利用者は、職員と一緒に台所に入り準備を手伝ったり、配膳、後片付けもしている。また、利用者の希望に合わせた食事の時間にも対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽が広く、週の入浴回数を決めて利用者2人ずつ入浴している。入浴には、職員がマンツーマンで付き添い対応し、会話を楽しみながら、時間をかけてゆっくり入浴できるように支援している。また、将来的に浴槽の改装を予定している。	○	今後は、浴槽の改装について、具体的な計画案の検討に取り組むことを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの趣味や好みを把握しており、手芸、花作り、大正琴、読書、絵手紙等の趣味や、散歩、ドライブ等の楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。また、一緒に茶碗を洗う等の役割支援など、多様な取り組みを心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブのほか、図書館へ行ったり、市の行事への参加やイベント見学等、一人ひとりの希望に沿って、多様な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけない支援の大切さを理解しており、日中は鍵をかけない生活をしている。夜間帯は、安全上の配慮から、施錠している。また、昼夜共に、見守りの必要な利用者には、個別の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年に1度実施している。また、マニュアルを整備しており、災害時には、事業所2階に居住する事務長をはじめ、管理者や近隣居住の職員が駆けつけるとともに、町内役員に連絡がつくようになっている。また、指定避難場所を確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々について、水分表、食事表があり、職員は確認しながら、一人ひとりの体重管理を行うとともに、カロリー計算を行い栄養バランスに気をつけながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、多くの写真や手作りの品を飾っており、季節毎に取り替えている。事業所内は、清潔に保たれ、快適に過ごせるよう配慮しているとともに、観葉植物や置物、テレビやソファ等を、居心地を考慮して配置している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が自宅で使用していた品や飾り物等を持ち込んでおり、好みを反映した落ち着ける場所となっている。また、仏壇を持ち込む利用者もおり、職員が花やお供えをするなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。